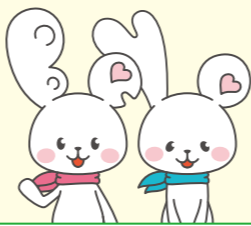


# ボランティアセンターだより



ボランティアセンターでは、地域のボランティア活動の活性化に取り組んでいます。

## 各種ボランティア講座の開催

- やましなふれあい手話講座
- やましな要約筆記ボランティア入門講座
- ボランティア講座 ～知的障がいのある人とともに～
- 視覚障害者ボランティア入門講座

## 山科区災害ボランティアセンター

### 設置・運営訓練の実施

災害ボランティアセンターは災害時に立ち上げられ、ボランティアをしたい人と手助けを求める人をつなぎます。災害時、円滑にできるよう設置・運営訓練などを行います。



## ボランティア団体への活動助成

ボランティア活動の発展と継続を支援するため、山科区の地域福祉を推進するボランティア活動へ公募助成を行います。

## ボランティア保険・行事保険の取次

ボランティア活動中の事故を補償する「ボランティア保険」、「福祉行事保険」、「まごころワイド」への加入を取り次ぎます。

## ボランティア活動に関する相談対応

ボランティア活動に関する相談について、情報提供やコーディネートを行います。

## チャリティボックス

ご寄付いただきありがとうございます。

皆さまからの貴重なご寄付は、山科区の社会福祉のために活用させていただきます。

朝岡耕策様・二子様

令和5年11月9日

わくわく健康まーじゃん教室様

24,182円 令和5年12月12日

株式会社京滋工業様

100,000円 令和5年12月19日

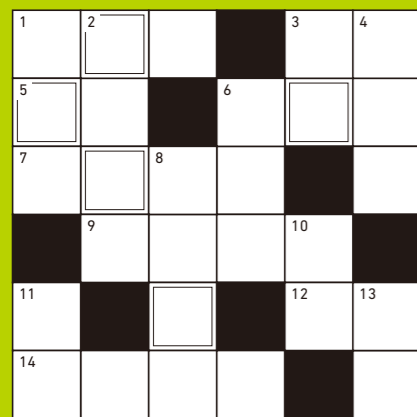
一般社団法人京都府不動産コンサルティング協会様

20,000円 令和6年3月8日

## クロスワードパズル

□の文字を並び替えてできる言葉は何でしょう？

解答



〈問題制作〉山科区在住 堀口さん

### ヨコのカギ

- 真っ赤な宝石
- 人間の体全体を包む皮
- 体を洗ったり湯に浸かったりする所
- 二日酔い予防やカレーなどに使われます
- 東を英語で?
- 車の運転をすること
- 地球の30%を占める場所
- ピラミッドがある国

### タテのカギ

- 「ONE PIECE」の主人公
- 滑らかな感触の織物
- 物を入れるための容器
- 薪や石炭などを燃やして暖を取る装置
- そのことについて知識や理解が不十分なこと
- 一時的に調子が出ないこと
- ハマチの出世魚 冬が旬
- 「〇〇袋」「〇〇の輪」
- プーさんは何の動物がモチーフ?

社会福祉法人 **京都市山科区社会福祉協議会**

住所 〒607-8344 京都市山科区西野大手先町2-1

電話番号 **075-593-1294**

FAX 075-594-0294

WEBサイト <https://yamashina-shakyo.or.jp/>

メール [email@yamashina-shakyo.or.jp](mailto:email@yamashina-shakyo.or.jp)

〒607-8344 京都市山科区西野大手先町2-1



SNSで情報を発信しています

Instagram



X (Twitter)



YouTube



社会福祉法人 京都市山科区社会福祉協議会 機関誌

ビーボ

# Be-Vo

vol.42

令和6(2024)年3月

発行者/内海 敏  
編集者/森本 広史

ひとりじゃない。みんなで支えよう!

# 生きづらさを抱える方を 地域ぐるみで支える



ゆるやかなつながりづくり  
花壇プロジェクト



あなたに  
みんなにやさしい  
山科区の  
福祉のまちづくり



身近な地域での見守り・ふれあい  
学区社会福祉協議会の活動



赤ちゃんからお年よりまで  
自由に過ごす  
フリースペース



はつらつお出かけ  
多様に広がる  
「通いの場」



ひろがる支援の輪  
子ども食堂・  
子どもの居場所



中面の特集  
Report

山科区の  
地域福祉を考える集い

生きづらさを抱える方を  
地域ぐるみで支えるということ



社会福祉法人 京都市山科区社会福祉協議会

機関誌Be-Volは一部共同募金の助成金で発行しています。



# 生きづらさを抱える方を 地域ぐるみで支えるということ

やましく  
山科区の  
ちいきふくし  
地域福祉を  
かんが  
つど  
考える集い



親子支援ネットワーク  
♪あんだんて♪  
家族支援ネットワーク  
♪らるご♪  
福本 早穂 さん



障害者  
地域生活支援センター  
からしだね  
武山 世里子 さん



山科醍醐  
こどものひろば  
村井 琢哉 さん



コーディネーター  
桜花会クリニック  
デイケアセンター  
児嶋 亮 さん



## 不登校からの回復プロセス

不登校の子どもたちが増えています。子どもたちは常に何かに追われている状況です。また、学校のマンパワー不足、親も多忙といった環境で、子どもの話をゆっくり聴いてくれる人が少なくなっているかもしれません。

不登校の子どもたちは、家を拠点、居場所にして、好きなことややりたいことでエネルギーを蓄えて、外の世界(人)とつながっていく過程で回復します。本人の成長・回復過程に合わせた見直しをもつことが大切です。

ストレスで不安や緊張が高ければ動けなくなります。休むことが認められる「安心・安全」な環境にいると再び動きはじめることができます。

「安心・安全」をキーワードに、本人が「決められる自由」を尊重され、環境を整えていくことができればいいですね。

♪らるご♪では、講座や親の相談会も開催しているので興味のある方は、ぜひ参加してください。



## 障害者支援の現場から

生きづらさを抱えている子どもの親とかかわっています。しかし、親自身に精神面でのしんどさがあり、親だけに「頑張る」と言うことの限界を感じています。

自宅でこもりがちな生活をされている人たちは「自分は社会のお荷物だ」と感じておられる方が少なくありません。家族以外に、地域に居場所となる「人」がいてくれたり、「自分がやらない」と思える「役割」がくれたらどれだけ素敵だろうかと思えます。

## 能登半島地震の被災地から

避難所運営の手伝いに被災地へ行きました。普段から自宅にこもりがちな生活をしている方がおられ、避難所での環境にしんどさを訴えておられました。障害ゆえに避難所に「行けない」方もおられます。

災害時に生きづらさを抱えた人が守られるには、平時にどれだけ地域とつながっているかが大切だと実感しました。みなさんと一緒に、一人の人を知ろうとしたり、何ができるのかを考えてみたりできたら、と思えます。



## 子どもたちが安心できる場所を

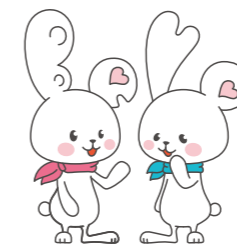
「地域で育つ子どもたちの環境づくり」をテーマに、子どもと関わる大人が増えることを願い、体験活動を軸に、悩みや困りを拾い、彼らの生活も応援する団体です。

「はあ、疲れた」と安心して言える場所がない子がいます。大人に怒られないよう必死で、休めていない。大丈夫じゃないときほど「大丈夫」と言います。「大丈夫」と言わなくなった瞬間には自傷行為や不登校などの段階に進んでいることが多いです。

そういった背景からどのような活動を創っていけばいいのか一緒に考えていただけたらと思います。地域での活動が、安心して愚痴を言える場所になればずいぶん変わってくると思います。

子どもの権利は特別扱いではなく当たり前前に備わっているものです。当たり前前の権利を行使できる環境について考えなければならぬ時代にあると思います。

地域の人のつながりが  
みんなの支えになると  
いいね!



山科醍醐  
こどものひろば

## 児嶋さんからのメッセージ

コロナの流行によって生じた孤立・孤独は、生活だけではなく、こころの寛容さにも影響を与えたように思えます。一方で、これまで覆い隠されてきた生きづらさが顕在化するきっかけにもなりました。

今の社会において、ひきこもりや不登校などは、個人の責任とされがちですが、背景には必ず日本文化に基づく生きづらさがあり、それは、社会的に不利な立場にある人に、より強く、深く影を落とします。そういった方々の声はか細く、または押し黙ることが常です。

我々がまずすべきことは「知ること」に尽きるのではないのでしょうか。

今回は地域共生を願うさまざまな立場にある方々と「生きづらさ」「つながり」をテーマとした交流ができました。熱のこもった議論により、皆様のこころに新たな火種が宿ったと思います。それは今後のつながりに応じて、より広く見渡す光となるでしょう。今後のつながりに、共に活かしていけると嬉しいです。

今回の集いが、当事者、地域住民、支援者という垣根を超えて、それぞれに役割があり、尊重される機会を生み出していききっかけになることを願っています。

親子支援  
ネットワーク  
♪あんだんて♪

家族支援  
ネットワーク  
♪らるご♪

京都市内の  
障害者  
地域生活支援センター

からしだねセンター

桜花会クリニック  
デイケアセンター

## 参加者の声

不登校の時、家を「こころを休めて充電できる場」にするという言葉が印象的。家庭をまるごと受入れて、見守りができる社会や地域が必要だと感じました。

能登半島地震の被害でさらに困りを抱えている要支援者の実情。普段から気になる家庭に声かけすることを心掛けたいと思います。

日頃のあいさつから始めて、子どもたちに顔を覚えてもらい、安心をあたえたい。

しんどいからこそ相談しづらい… 一歩踏み出す声かけや、参加できる地域の居場所づくりの大切さを感じました。

「生きづらさ」のある若者、高齢者、障害者… 当事者の小さな会、集まれる場所があったらいいなあ。

行政や支援機関、地域役員どうしが、もっと「顔の見える関係」で、互いの困りごとを相談しやすい仕組みがあったらと思いました。

